

第2章

熱中症による災害発生状況について

気温の高い夏季には熱中症が多く発生しており、過去10年間の職場における熱中症による死亡災害は合計186件で、毎年20名前後の死亡災害が発生しています（図1）。

休業4日以上（死亡災害を除く）の災害は平成19年の1年間で299件発生しています。

さらに、休業4日以上（死亡災害を除く）の災害について発生場所をみると（図2）、屋外のみだけでなく、全体の約3割が屋内で発生しています。

図1：職場における熱中症による死亡災害発生件数の推移

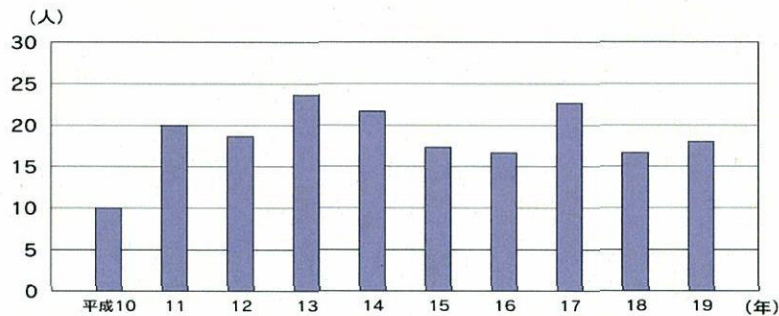
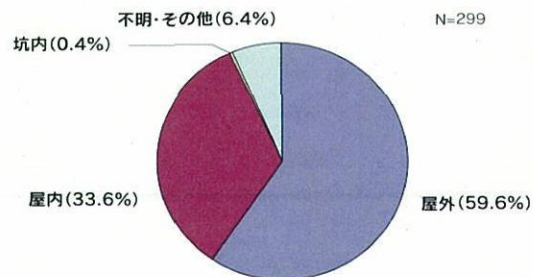


図2：職場における熱中症による休業4日以上（死亡災害を除く）の発生場所（平成19年）



熱中症の発生状況を業種別にみると、死亡災害は圧倒的に建設業に多く見られています（図3）。また、建設業以外の業種であっても、休業4日以上（死亡災害を除く）（平成19年）は様々な業種において発生しています（図4）。

図3：職場における熱中症による死亡災害の業種別発生件数（平成10年～19年）

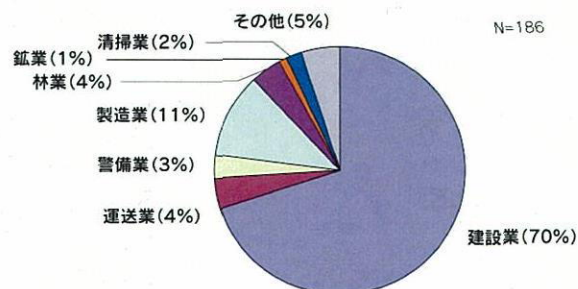
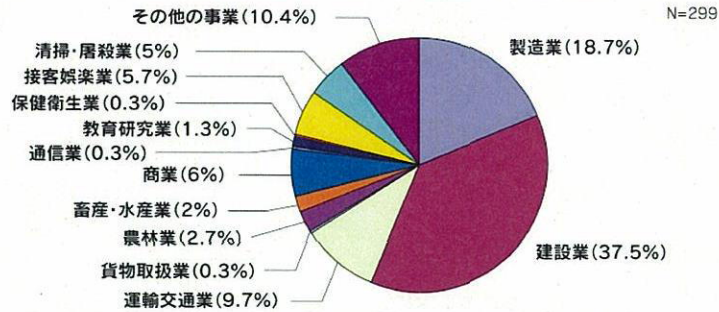


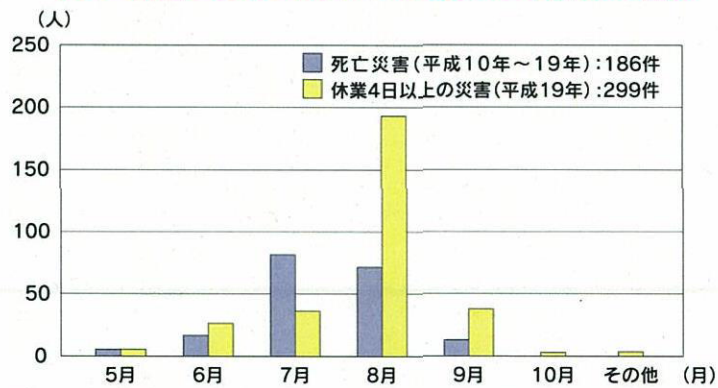
図4：職場における熱中症による休業4日以上災害

(死亡災害を除く)の業種別発生件数(平成19年)



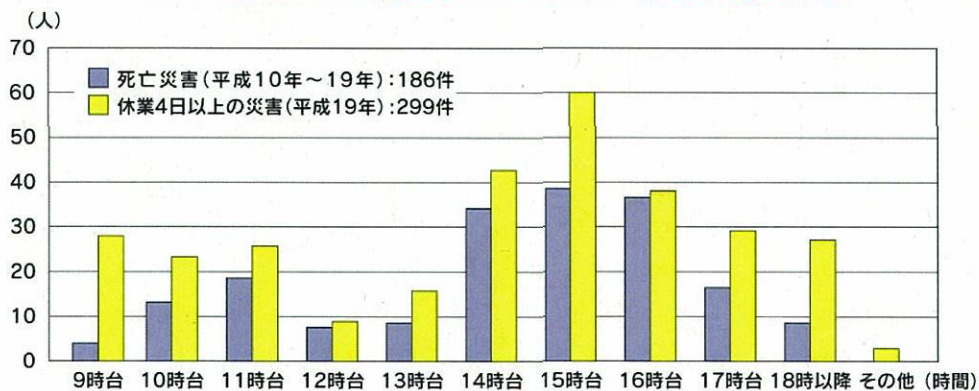
熱中症は5月から9月にかけて多く発生し、死亡災害では7月と8月に多く発生しています。休業4日以上災害(死亡災害を除く)では、8月に圧倒的に多く6割以上の災害が発生しています(図5)。

図5：職場における熱中症による災害の月別発生件数



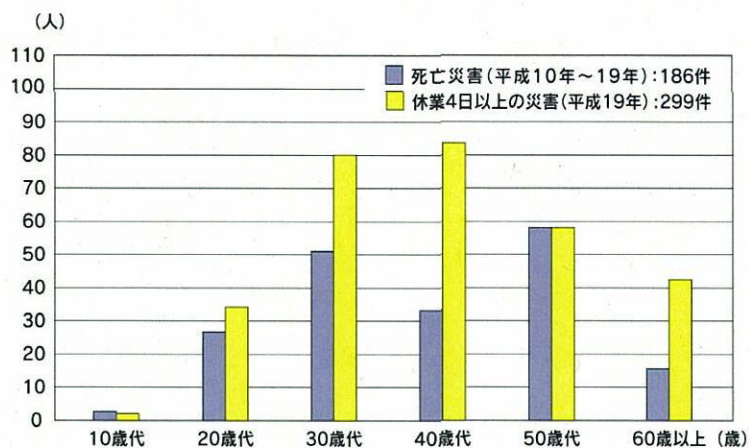
熱中症の発生時刻は、午後2時台から午後4時台までに多発しており、全体の半数以上を占めています(図6)。また、休業4日以上災害(死亡災害を除く)(平成19年)では、朝9時台の作業開始後から発生しており、必ずしも日中に限らず、朝・夕刻でも災害は発生しています。

図6：職場における熱中症による災害の時間帯別発生件数



熱中症の被災者の年齢は、30歳代から50歳代で多く発生しています（図7）。休業4日以上
の災害（死亡災害を除く）の中には女性も含まれていますが、死亡災害の被災者はすべて男性で
す。

図7：職場における熱中症による災害の年代別発生件数



作業を開始してからの死亡災害が発生する日数を見てみると、作業開始から数日の間で多く発生しています（図8）。特に、高温多湿下での作業に慣れていない初日と2日目に多発しています。

図8：職場における熱中症による死亡災害の作業日数別発生件数
(平成10年～19年)

